

ハワイ大学臨床実習

医学科5年 Aさん

はじめに

この度、2022年12月5日～12月30日の間、ハワイ大学臨床実習に参加させて頂きました。海外の医療現場を見ることができたことは、貴重な経験になりました。実習のサポートに携わって頂いたすべての方々はこの場を借りて御礼申し上げます。

Family Medicine @ Dr. Tokeshi's office (2022/12/5～2022/12/10)

ある一日のスケジュール

- ・ 7:30 : Dr.Tokeshi's office 集合
- ・ 8:00 : 診察開始
- ・ 12:30 : 解散

最初の1週間は、渡慶次先生のもとでFamily Medicineの実習に参加させて頂きました。渡慶次先生は沖縄出身で、何十年もハワイで家庭医として働かれています。先生はBest Doctor's Awardを含め数々の賞を受賞されており、clinicにはたくさんの賞状が飾られています。先生は長年、武道を嗜まれており、診療においても武道の精神を重んじられています。実習前に頂いたTokeshi Dojo Survival Manualは1291ページにもわたり、医師としての心構えなどが書かれていました。

実習中は、clinicで働くmedical assistantと共に予診を行い、先生に内容を報告し、診察を見学しました。Medical assistantは、まだ医学部に入学していないにも関わらず、かなりの医学知識と手技を身に付けており、驚かされました。先生は何世代にも渡って患者さんのご家族をご存知で、患者さんととても深い信頼関係があります。「渡慶次先生がいなくなってしまうたら、私の人生は終わりです!」「先生のことを毎日思っています」と言っている患者さんがいたことは、とても印象的に残っています。1週間という短い間ではありましたが、医師としての心構えも学ぶことができ、とても充実した実習となりました。

Internal Medicine @ Kuakini Medical Center (2022/12/12～2022/12/30)

ある一日のスケジュール

- ・ 6:00 : Kuakini Medical Center 集合
- ・ 7:30 : Morning Report, カンファレンス
- ・ 10:00 : ICU Round
- ・ 11:00 : Attending へのプレゼン
- ・ 12:00 : 昼食
- ・ 13:00 : 家族との面会、レクチャーなど
- ・ 16:00 : 解散

次の3週間は Kuakini Medical Center の内科病棟実習でした。内科チームは A~D の4チームに分かれており、それぞれが upper resident, intern, observer で構成されていました。私の実習中は medical student は休暇中でいませんでしたが、普段は medical student もチームの一員として参加しています。

おおまかな1日の流れとしては、6時前に出勤して患者さんの overnight event や朝のバイタル、検査結果をカルテで確認します。その後、upper と一緒に患者さんを診察します。Morning report では、各グループが興味深かった症例提示を行い、他のグループは臨床推論をしました。その後、その症例で重要な topic について簡単なレクチャーがありました。ICU round 後は、attending を見つけて担当患者さんのプレゼンを行います。昼食後の予定は日によって様々でしたが、upper によるレクチャーや患者さん家族との面会が主でした。4日に1日は入院患者さんを受け入れる call day で、この日は日々の予定に加え、入院新患の対応に追われ、1日中忙しいことが多かったです。

Observer としてできることは限られていますが、私も積極的に参加するよう心掛けました。患者さんを1、2人担当し、attending へのプレゼンをさせて頂きました。治療方針を自分で考え、チームで議論した結果を SOAP 形式で発表しました。いざやってみると患者さんについてきちんと把握できていない部分があり、upper からのフィードバックをもとに、改善するよう努めました。回数を重ねるごとにだんだんスムーズに発表できるようになり、ある患者さんの入院から退院までのプレゼンを一通りすべて担当できたことは、自信に繋がりました。また、call day で新患さんが運ばれてきた時には、assessment & plan を作成し、upper に添削してもらいました。珍しい症例を経験した際は、論文を読み、学んだことをグループに発表する機会も頂きました。

実習中はコードブルーの蘇生処置や、ICU 患者さんの気管挿管、腰椎穿刺など様々な処置も見学することができました。グループで担当した症例は肺炎、蜂窩織炎、敗血性ショック、心不全、COVID-19、インフルエンザ、けいれん、ジゴキシン中毒など様々でした。

ハワイと日本を比較して、やはり医療保険の問題は大きく、検査は必要最小限が徹底されていました。「念のために」検査をすることはなく、根拠がなければ検査はできません。そのため、自分で治療方針を考える際には、必ず根拠に基づいて考えるよう、指導されました。また、resident がほぼ独立して10人ほどの患者さんの治療にあたっており、システムの違いもありますが、resident の臨床レベルの高さを実感することができました。チームの枠を超えて活発に意見交換やディスカッションが行われており、学生の私でも気軽に発言できる雰囲気は、とても気に入りました。

実習を終えて

1か月間のハワイ滞在中、様々な先生方の話を聞くことができ、視野が広がりました。ハワイで residency をされている日本人の先生には、アメリカの医療について貴重なお話を聞かせて頂きました。渡慶次先生の clinic で働いていた medical assistant にはハワイ大学医学部のキャンパスを案内して頂きました。また、同時期にクアキニ病院を訪問されていた板橋

中央総合病院の院長やハワイ大学外科教授である町先生にもお会いすることができました。3年前に高知大学に留学に来ていた当時の medical student と再会することができたことは、嬉しい限りでした。彼女は現在、小児科の residency を行っており、忙しい中、何度も食事に誘ってくれました。12月という異例の時期の留学のため、ハワイ大学の medical student が休暇中で、他大学からの留学生もいなかったことが唯一の心残りですが、このタイミングでしか経験できなかったこと、出会えなかった人がいたと思います。ちなみに、クリスマスは call day でしたが、病院内でミニパーティーができたのも良い思い出です。

留学前は何かと不安に思うこともありましたが、本当にかげがえのない経験となりました。このような経験をさせて頂いたことへの感謝の気持ちを忘れず、将来に生かしたいと考えています。最後になりますが、アメリカの臨床現場を見ることができる機会など減多にならないため、興味のある方々は是非積極的に本プログラムに応募してみてください。